

日台戸外遊び環境に対する子どもの意識の比較研究

国立嘉義大学

曾碩文

招聘期間（2012 年 1 月 19 日～2 月 17 日）

2012 年 3 月

財団法人 交流協会

日台戶外遊び環境に対する子どもの意識の比較研究

はじめに

成長期の子どもにとって、心身の発達や人格の形成には多様な遊びが必要である。その中でも、子どもの遊びを通じた自然との触れあいは、知能の発達や安定した情緒の形成に欠かせないものと言われている。仙田（1992）は、遊びの六つの原空間（自然スペース、オープンスペース、アナーキスペース、アジトスペース、遊具スペース、道スペース）の中で、自然スペースがその中心であると指摘している。室崎・市岡（1989）は、遊びを誘発する六つの要素（オープンスペース性、遊具性、空間形態の変化性、たまり性、素材性、自然性）の中に、「自然性」を独立した要素としてあげられている。すなわち、子どもの戶外遊びには、自然的空間は重要な役割を担っていると言える。

しかし、近年、都市化の進展とともに、空き地、山、川、野原、田畑などの自然的空間が少なくなっており（仙田・岡田、1993）、特に、開発が進んでいる都市では自然的空間の減少がより深刻化し、身近に子どもの強い好奇心に対応できる自然スペースや自由に遊べる空間も減少している。こうした中で、子どもの動植物を活用した自然遊びなどが若い世代ほど減少し、自然遊びの種類が貧困化してきていることも指摘されている（菅麻・田畑、1986；山田・田畑、1985）。地理的に日本に近い台湾も、1970年に入ってから日本と同様に高度経済成長による急速な都市環境、社会環境の変化を経験し、塾や習い事などの普及、テレビゲームなどの遊びへの変化などの課題に直面した。しかし、日本に比べて、子どもの遊び環境に対する関心は低く、子どもが自由に遊べる公園や身近な自然的空間が少ない（仙田、1984）。

遊び環境の国際比較や東アジアを対象とした研究は、尾木ら（1990）や三輪ら（1992）によるソウル、北京、名古屋、横浜、東京などの東アジア都市とミュンヘン、トロントを加え、小学校区単位でアンケート調査や観察調査を実施した一連の研究、そして、木下・中村（1995）による日・中の首都圏内の居住地形態と子どもの遊び環境との関連に関するものがみられる。これらの研究では、遊び空間、遊びの種類、遊び仲間などの比較によって、東アジア都市における遊び環境の問題を明らかにしているが、自然的遊び場に注目したものではない。

本研究では、日台両国の大学生を対象とした原風景としての遊び場の印象・評価を調査するとともに、自然的遊び場の減少が深刻化している都市に居住する日台の子どもを対象として、都市内にある各種の自然的遊び場の写真を用い、それらの写真に対する印象・評価を把握し、自然遊びに関する必要な空間や要素などを明らかにしようとして試みた。また、札幌市と台中市を選択した理由は、全国から学生が集まる大学があることと、自然のおよび都市的な遊び場の両者が都市内にあることによる。さらに、日本と比較することにより、台湾の都市内の自然的遊び場の問題点についても検討した。

1. 研究の方法

1.1 大学生の子どもの頃の遊び場調査

札幌市の大学生と台湾台中市の大学生を対象とし、遊び場に関する写真を用いた評価実験を行った。遊び場の評価については、夏期に札幌市等で撮影した写真10枚（写真1～10、写真はA4一枚の紙に印刷した）を用い、好ましさについて「5：非常に好ましい」、「4：やや好ましい」、「3：どちらともいえない」、「2：やや好ましくない」、「1：非常に好ましくない」、

の5段階で記入してもらった。さらに、それぞれの写真についてどのような印象をもっているか、過去にどのような遊びをしたか、類似した場所で遊んだ経験及び遊んだ年齢を質問した。

1.2 子どもの自然的遊び場調査

札幌市内子どもと台湾台中市内小学校の子どもに対し、自然的遊び場に関する写真を用いた評価実験を行った。評価用紙への記入に際しては、高学年の場合は本人に、低学年の場合は保護者の助力を得て行うよう依頼した。評価については、夏期に札幌市で撮影した各種の自然的遊び場のL版写真(8.9cm×12.7cm)10枚を用い(写真11~20)、好ましさと自然らしさの尺度として、好ましさについて「5:とても好き」、「4:ちょっと好き」、「3:どちらでもない」、「2:ちょっと嫌い」、「1:とても嫌い」、自然らしさについて「5:とても自然な感じ」、「4:かなり自然な感じ」、「3:すこし自然な感じ」、「2:ほとんど自然を感じない」、「1:人工的な感じ」、の5段階ではまるものをそれぞれ一つずつ記入してもらった。さらに、それぞれの写真について、印象、遊びの種類、遊び経験の有無を質問した。写真の選択は既往の研究(室崎・市岡, 1989; 長山, 1988)により、子どもは公園、家周辺、河川、樹林、空き地などの場所を身近な自然的遊び場として認識していることから、遊具のある公園(樹木が多い・少ない)の写真1, 5, 雑木林の写真2, 整然とした樹林の写真3, 人工的な階段や護岸のある小川の写真4, 鬱蒼とした樹林のある小川の写真6, 空き地の写真7, 家の庭の写真8, 原っぱの写真9, 神社の写真10, の計10枚を用いた。

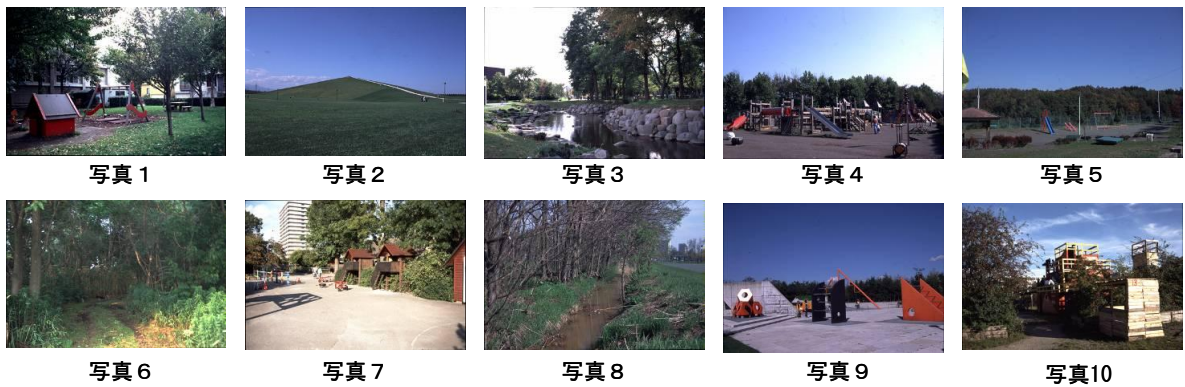


写真1~10 大学生の子ども時代の遊び場の評価実験に用いた写真



写真11~20 自然的遊び場の評価実験に用いた写真

2. 結果

2.1 遊び場に対する大学生の評価

1) 好ましさにについて

日台の各写真の平均得点をみると、表 1 に示したように、日本は樹木が多く小川のある写真 3, 6 及び築山のある写真 2 の評価が高く、一方、芸術的遊具のある写真 9 の評価が低かった。台湾も同様に樹木が多く小川のある写真 3, 6 及び築山のある写真 2 の評価が高く、一方、冒険遊び場の写真 10, ブランコや滑り台のある写真 5, 7 及び芸術的遊具のある写真 9 が低かった。そのため、両国の評価にはかなり高い相関がみられた ($r=0.77, p<0.01$)。国別の相違では t 検定により有意差がみられ、大型木製遊具のある写真 4, 典型的な遊具のある写真 5, 濁った小川のある写真 8, 冒険的遊び場の写真 10 で日本は台湾より高く評価していた。また、築山のある写真 2, 綺麗な小川のある写真 3, 芸術的遊具のある写真 9 で台湾は日本より高く評価していた。

性別、大都市・中小都市、経験の有無で分散分析を行うと、表 1 に示したように、日本では、7 枚の写真で有意差がみられ、築山のある写真 2, 典型的な遊具のある写真 5, 7 と樹木が多く小川のある写真 8, 大型木製遊具のある写真 10 については遊び経験のある大学生が高く評価していた。また、小屋やブランコのある写真 1 については女性、遊び経験のある大学生、樹木が多く小川のある写真 6 については子どもの時の出身地は大都市の大学生、遊び経験のある大学生が高く評価していた。台湾では、7 枚の写真で有意差がみられ、小屋やブランコのある写真 1, 築山のある写真 2 と樹木が多く小川のある写真 3, 6, 8, 大型木製遊具のある写真 4 については遊び経験のある大学生が高く評価していた。芸術的遊具のある写真 9 については女性、遊び経験のある大学生が高く評価していた。

表 1 大学生による好ましさの平均得点の日台比較

写真番号	国別		日本								台湾													
	日本 (16)	SD	台湾 (13)	SD	性別		都市別		経験		F値	性別		都市別		経験		F値						
					男性 (7)	女性 (3)	大都市 (4)	中都市 (6)	有	無		男性 (6)	女性 (2)	大都市 (3)	中都市 (6)	有	無							
写真1	346	1.05	330	0.90	316	366	335	347	365	(9)	316	(2)	339	*	300	311	320	291	339	(11)	272	(16)	430	***
写真2	403	0.98	429	0.78	394	424	410	407	440	(5)	378	(8)	507	**	414	413	423	404	439	(10)	388	(2)	369	*
写真3	412	0.90	433	0.68	402	400	385	417	420	(8)	382	(3)	206		403	401	400	404	441	(11)	364	(16)	520	**
写真4	389	0.90	308	1.03	366	371	361	376	396	(10)	341	(14)	1.59		273	297	298	277	316	(10)	254	(23)	338	*
写真5	334	0.95	288	0.89	305	334	307	332	352	(9)	287	(2)	412	**	274	298	287	285	292	(9)	280	(4)	097	
写真6	403	1.13	409	0.95	380	395	407	389	446	(7)	330	(3)	120	***	361	356	369	349	431	(13)	286	(2)	1812	***
写真7	306	0.85	297	0.91	314	298	311	302	331	(5)	281	(6)	372	*	286	309	308	287	307	(7)	288	(6)	1.55	
写真8	344	1.21	302	1.21	334	352	344	343	403	(5)	284	(8)	10.95	***	311	292	310	293	346	(6)	257	(8)	7.13	***
写真9	263	1.05	299	0.93	273	281	288	266	295	(2)	259	(9)	1.42		272	314	294	292	317	(7)	269	(5)	484	**
写真10	330	1.06	261	1.05	347	332	343	336	371	(3)	308	(7)	2.98	**	266	264	268	262	288	(5)	242	(7)	1.99	

平均値は経験の有無の区別で分散分析して有意であったもの。***: $p<0.001$, **: $p<0.01$, *: $p<0.05$
経験の有無 大学生の子どもの頃類似した場所で遊んだことがあるかどうかを指している。() 内は回答数

2) 遊びの種類および印象語の相違

日台における遊びの種類についての相違を比較してみると、表 2 に示したように、両国とも「水遊び」や「動植物遊び」が多くあげられ、台湾では特に「散策」も多くみられた。また、日本では、「ボール遊び」が多くみられたが、台湾ではこういった遊びが少なかった。

日台における印象語についての相違を比較してみると、表 2 に示したように、芸術的遊具のある写真 9 については、両国とも「芸術的・近代的」といった印象語が多く、日本では「危

険」,「人工的」や「遊ぶ気分がしない」といった印象語も多くみられた。また, 冒険的遊び場の写真 10 について, 日本では「楽しい・面白い」といった印象語が多く, 台湾では「工事現場・空き地」といった印象語が多くみられた。また, 樹木が多く小川のある写真 6 について, 両国とも「自然」といった印象語が多く, 日本では「怖い・暗い」といった印象語も多くみられた。大型木製遊具のある写真 4 とブランコや滑り台のある写真 5 について, 台湾では「賑やか」や「暖かい・暑い」といった印象語を多く連想された。

表 2 大学生による遊びの種類と印象語についての日台の相違

日本 好ましさ の順位 N=16	遊びの種類(%)	印象語(%)	台湾 好ましさ の順位 N=13	遊びの種類(%)	印象語(%)
写真3	水遊び(5)	気持ちいい(17) 人工的(14) 楽しい・面白い(10)	写真3	散策(4) 水遊び(38) 動物遊び(14)	気持ちいい(26) のんびり(23) 公園(11)
写真2	ボール遊び(23) 遊具遊び(15) 身体動かす遊び(10)	広(4) 気持ちいい(10) 遊道が少(10)	写真2	身体動かす遊び(38) 散策(32) 遊具遊び(26)	広(4) 気持ちいい(19) 自然(16)
写真6	探検(28) 動物遊び(25)	自然(26) 楽しい・面白い(16) 危険(12) 怖い・暗(12)	写真6	散策(39) 木登り・山登(36) 動物遊び(16) 探検(15)	自然(29) 気持ちいい(18) 動物 植物(13)
写真4	遊具遊び(53) 鬼っつなど(23)	楽しい・面白い(35) 遊道具が多(19)	写真1	遊具遊び(66) 鬼っつなど(16)	学校(16) 懐かしい(11)
写真1	遊具遊び(46) 鬼っつなど(24)	狭(29) 怖い・暗(16)	写真4	遊具遊び(7)	賑やか(17) 遊場(14) 暖かい・暑(12)
写真8	動物遊び(38)	汚(16) 動物 植物(15) 危険(14)	写真8	動物遊び(27) 散策(15)	汚(35)
写真5	遊具遊び(46) 鬼っつなど(20) ボール遊び(19)	普通(16) 楽しくない・面白くない(13) 広(10)	写真9	遊具遊び(16) 散策(5) 身体動かす遊び(14)	芸術的 近代的(20)
写真0	鬼っつなど(19) 遊具遊び(12)	楽しい・面白い(17) 危険(16)	写真7	遊具遊び(17) 鬼っつなど(12) 散策(12)	都会 住宅(13)
写真7	鬼っつなど(12) ボール遊び(11)	都会 住宅(20)	写真5	遊具遊び(4)	暖かい・暑(11) 楽しくない・面白くない(11)
写真9	鬼っつなど(19) 遊具遊び(13)	芸術的 近代的(22) 危険(19) 人工的(14) 遊ぶ気分がしない(11)	写真0	鬼っつなど(20) 身体動かす遊び(13)	工事現場 空き地(23) 汚(11)

%は各写真における回答数に対する種類の比率。遊びの種類と印象語は10%以上のものを記載

2.2 自然的遊び場に対する子どもの評価

1) 好ましさについて

札幌市と台中市の各写真の平均得点をみると, 表 3 に示したように, 札幌市は樹木が多く遊具のある公園の写真 1, 整然とした樹林の写真 3, 人工的な護岸や階段のある小川の写真 4 の評価が高く, 一方, 空き地の写真 7, 家の庭の写真 8 の評価が低かった。また, 台中市でも同様に樹木が多く遊具のある公園の写真 1, 雑木林の写真 2, 整然とした樹林の写真 3, 人工的な護岸や階段のある小川の写真 4 の評価が高く, 一方, 樹木が少なく遊具のある公園と空き地の写真 7 の評価が低かった。そのため, 札幌市と台中市の評価にはかなり高い相関がみられた ($r=0.92$, $p<0.001$)。国別の相違では t 検定により有意差がみられ, 雑木林の写真 2 と家の庭の写真 8 で台中市は札幌市より高く評価していた。

学年, 性別, 経験の有無で分散分析を行うと, 表 3 に示したように, 札幌市では 2 枚の写

真で有意差がみられ、雑木林の写真2については高学年、男子、遊び経験のある子ども、鬱蒼とした樹林のある小川の写真6で高学年が高く評価していた。台中市では3枚の写真で有意差がみられ、樹木が多く遊具のある写真1については低学年、人工的な護岸や階段のある小川の写真4と原っぱの写真9については遊び経験のある子どもが高く評価していた。

表3 子どもによる好ましさの平均得点の日台比較

写真番号 (63)	国別		札幌市								台中市												
	日本 (6)	SD (5)	学年				性別				経験	F値	学年				性別				経験	F値	
			低学年	高学年	男子	女子	有	無	低学年	高学年			男子	女子	有	無							
1	408	084	410	089	405	401	417	390	410	(55)	395	(3)	-	457	372	409	420	405	(40)	424	(12)	588	***
2	347	148	406	133	277	420	376	322	413	(31)	284	(28)	1362	436	407	434	409	475	(18)	368	(32)	265	
3	429	096	456	067	424	380	411	393	431	(51)	373	(8)	269	458	446	445	459	454	(40)	451	(11)	034	
4	402	115	406	114	419	385	408	396	422	(40)	381	(18)	152	390	409	397	402	448	(28)	352	(23)	361	*
5	290	134	248	115	243	172	229	186	293	(55)	122	(2)	-	231	262	239	254	255	(29)	238	(20)	041	
6	331	127	339	140	292	365	356	343	334	(22)	334	(35)	461	359	375	396	338	412	(18)	322	(31)	246	
7	186	111	150	075	199	171	192	178	203	(29)	167	(32)	120	135	163	157	141	156	(20)	142	(27)	100	
8	234	120	308	137	242	227	260	209	247	(19)	222	(37)	102	285	347	309	323	330	(14)	302	(31)	102	
9	361	115	387	125	363	337	363	337	364	(40)	336	(18)	083	395	411	434	373	442	(21)	364	(31)	310	*
10	344	130	390	129	339	384	363	359	370	(22)	353	(26)	060	349	389	318	420	378	(29)	360	(15)	235	

平均値は整数のみのある

下線は分散分析において有意であったもの、***:p<0.001、**p<0.01、*p<0.05

経験の有無 子どもが類似した場所を遊んだことがあるかどうかを指している。()内は回答数

2) 自然らしさについて

札幌市と台中市の各写真の平均得点をみると、表4に示したように、札幌市は雑木林の写真2と鬱蒼とした樹林のある小川の写真6は自然らしさが高く感じられ、樹木が少なく遊具のある公園の写真5、空き地の写真7と家の庭の写真8は自然らしさが低く感じられていた。また、台中市でも類似した傾向がみられ、雑木林の写真2、整然とした樹林の写真3と原っぱの写真9は自然らしさが高く感じられ、樹木が少なく遊具のある公園の写真5と空き地の写真7は自然らしさが低く感じられていた。そのため、札幌市と台中市の評価にはかなり高い相関がみられた ($r=0.94$, $p<0.001$)。国別の相違では t 検定により有意差がみられ、樹木が多く遊具のある公園の写真1、整然とした樹林の写真3、家の庭の写真8、原っぱの写真9と神社の写真10で台中市は札幌市より自然らしく感じられていた。

学年、性別、経験の有無で分散分析を行うと、表4に示したように、札幌市では1枚の写真で有意差がみられ、整然とした樹林の写真3については低学年が自然らしく感じられていた。台中市では4枚の写真で有意差がみられ、樹木が多く遊具のある公園の写真1と整然とした樹林の写真3については低学年が自然らしく感じられていた。また、原っぱの写真9で

表4 子どもによる自然らしさの平均得点の日台比較

写真番号 (63)	国別		札幌市								台中市												
	日本 (6)	SD (5)	学年				性別				経験	F値	学年				性別				経験	F値	
			低学年	高学年	男子	女子	有	無	低学年	高学年			男子	女子	有	無							
1	295	120	344	118	310	266	270	306	296	(55)	280	(3)	-	393	294	326	362	338	(40)	349	(12)	409	***
2	413	094	423	125	386	440	410	417	433	(31)	393	(28)	232	436	433	442	428	458	(18)	411	(32)	058	
3	338	116	415	102	385	308	370	319	328	(51)	360	(8)	391	451	363	392	422	416	(40)	398	(11)	467	**
4	344	132	350	116	372	321	345	348	354	(40)	339	(18)	087	349	334	314	368	363	(28)	320	(23)	145	
5	151	081	179	109	162	126	140	149	143	(55)	146	(2)	-	196	160	161	195	186	(29)	170	(20)	089	
6	395	105	382	134	376	426	394	408	398	(22)	404	(35)	131	392	392	403	380	399	(18)	384	(31)	014	
7	129	052	144	083	142	113	130	125	131	(29)	124	(32)	185	136	150	136	150	151	(20)	135	(27)	032	
8	176	090	269	123	191	163	168	186	175	(19)	179	(37)	056	292	259	245	306	305	(14)	246	(31)	152	
9	344	109	398	128	355	330	336	349	348	(40)	337	(18)	033	389	432	429	392	451	(21)	371	(31)	314	*
10	284	121	335	131	261	348	291	318	303	(22)	306	(26)	233	297	327	253	370	333	(29)	290	(15)	311	*

平均値は整数のみのある

下線は分散分析において有意であったもの、***:p<0.001、**p<0.01、*p<0.05

経験の有無 子どもが類似した場所を遊んだことがあるかどうかを指している。()内は回答数

遊び経験のある子ども、神社の写真 10 については女子が自然らしく感じられていた。

3) 遊びの種類および印象語の相違

札幌市と台中市における遊びの種類についての相違を比較してみると、表 5 に示したように、両国とも「鬼ごっこなど」が多くあげられ、小川のある写真 4 と 6 では、「水遊び」や「動植物遊び」も多くあげられていた。

札幌市と台中市における印象語についての相違を比較してみると、表 5 に示したように、台中市では「気持ちいい」といった印象語が多く、一方、札幌市では「自然」といった印象語が多くみられた。雑木林の写真 2 については、札幌市では「暗い」や「怖い」といった印象語が多く、一方、台中市では「楽しい・面白い」といった印象語が多くみられた。

表 5 子どもによる遊びの種類と印象語についての日台の相違

写真番号	札幌市 遊びの種類(%)	印象語(%)	台中市 遊びの種類(%)	印象語(%)
写真1	鬼ごっこなど(65) 遊具遊び(16) 音楽(13)	自然(30) 気持ちいい(24) 楽しい・面白い(18)	鬼ごっこなど(50) 遊具遊び(13) ボール遊び(12)	気持ちいい(33) 楽しい・面白い(13)
写真2	鬼ごっこなど(35) 音楽遊び(25) 動植物遊び(19)	自然(35) 怖・暗(30) 気持ちいい(13)	鬼ごっこなど(35) 身体動かす遊び(14) 秘密基地遊び(12)	気持ちいい(33) 楽しい・面白い(12) 自然(12)
写真3	鬼ごっこなど(51) 音楽(25) 身体動かす遊び(14)	気持ちいい(33) 自然(27) 人工的(13)	鬼ごっこなど(35) 身体動かす遊び(12) 音楽(10)	気持ちいい(42) リラックス(19) きれい(15)
写真4	水遊び(54) 動植物遊び(13)	自然(22) きれい(14) 楽しい・面白い(8)	動植物遊び(29) 水遊び(19) 鬼ごっこなど(15)	気持ちいい(42) 楽しい・面白い(10) きれい(10)
写真5	ボール遊び(44) 鬼ごっこなど(27) 身体動かす遊び(14)	人工的(16) 遊物めざまし(11) 寂しい(11)	鬼ごっこなど(29) 遊具遊び(19) 身体動かす遊び(19)	遊物めざまし(21) 暑がる(15) 汚(12)
写真6	動植物遊び(35) 水遊び(13)	自然(25) 動植物(19) 綺麗(10)	動植物遊び(29) 水遊び(23) 鬼ごっこなど(12)	気持ちいい(27) 自然(15) 楽しい・面白い(10)
写真7	鬼ごっこなど(21) ボール遊び(10)	危険(19) 自然めざまし(14) 人工的(11) 楽しくない・面白くない(10)	鬼ごっこなど(25) 身体動かす遊び(25) ボール遊び(8)	汚(25) 怖・暗(8)
写真8	動植物遊び(16) 鬼ごっこなど(14)	人の家(22) 楽しくない・面白くない(16) 人工的(14)	動植物遊び(19) 鬼ごっこなど(17) 音楽(12)	汚(23) 気持ちいい(17) きれい(12)
写真9	鬼ごっこなど(35) ボール遊び(19) 身体動かす遊び(18)	自然(27) いい感じがした(11)	鬼ごっこなど(29) 身体動かす遊び(19)	気持ちいい(33) きれい(12) 寂しい(10)
写真10	鬼ごっこなど(22) 身体動かす遊び(11) 探検(11)	神宮・神社(14) 自然(11) 気持ちいい(10)	身体動かす遊び(29) 音楽(21) 鬼ごっこなど(19)	気持ちいい(27) きれい(15) リラックス(10)

%は写真における回答数に対する割合、遊の種類は印象語10%以上のものを記載

3. 考察

写真を用いた評価実験としては、両国の大学生においては、日台間で好ましさに高い相関が示された。これは、Hezog *et al.* (2000) が報告しているように文化の近い異文化間の景観評価が類似していること、また、Yu (1995) が指摘しているように景観に対する好ましさについては人間の基本的な好みがあることに対応している。両国とも、自然性の高い遊び場についての評価が高く、「気持ちいい」や「楽しい・面白い」といった印象語が多くあげられていることから、このような場所での体験が心により強く残っていると推察される。また、Newell (1997) が報告しているように国や文化の違いにもかかわらず、大学生が最も好む場

所は自然的空間であるとの結果にも対応している。そして、このような場所で遊んだ経験のある大学生は、自然的遊び場をより高く評価していることから、遊び経験の有無は自然的遊び場の評価と強い関連があることを示唆している。大型木製遊具のある場所についての評価は日本が台湾より高い傾向がみられたことから、台湾の大学生は子どもの時にこのような遊戯施設が設置された遊び場での遊び経験が少ないため、このような遊び場についての評価に影響したと考えられる。また、台湾では「ボール遊び」が日本より少ない傾向がみられ、日本の大学生の子どもの時にボール遊びの内容は野球やサッカーが主であること、そして、野球やサッカーに対する国民性の違いとの関連があると考えられる。

自然的遊び場の写真を用いた評価実験としては、札幌市と台中市の子どもにおいては、好ましさや自然らしさに高い相関が示されていた。札幌市も台中市も、樹木や小川のある場所や林床がある程度手入れされ見通しがよい場所の好ましさが高いことから、樹木の存在や場所の手入れは自然的遊び場の評価に影響していると考えられる。特に、林床が芝生の場合、活動の自由度を高めることが評価を高めているのであろう。Lindholm (1996) が報告したように環境全体の自然性は子どもたちが遊び環境の良さや好ましさを判断する重要な要素であることと対応する。一方、台中市の子どもは、自然的遊び場についての評価は日本より高いことから、今回調査した小学校の付近の公園内では、樹木が多く小川がある写真と類似している場所があり、子どもはそこでの遊び経験を持っているため、評価に影響したと考えられる。また、このような自然的遊び場で遊んだ経験のある子どもは、自然性の高い手入れがあまりされていない場所をより高く評価していた。建部ら (2003) が指摘したように、自然的空間での体験ができるかどうか、場所の好感度を判断する際に影響すると考えられ、子どもにとっては、自然体験の有無が自然的遊び場の評価に影響すると推察される。また、林床が手入れされていない自然的遊び場については、遊び経験のない子どもの評価が低いことから、日常的な遊び場として認識されていないとも考えられる。また、台湾の子どもは家の庭の写真 8 をより高く評価し、黄 (2000) が指摘したように、近年、社会的変化で、都市の子どもが自由に活動できる範囲は、学校と家の中などに限定されていると考えられる。遊びの種類と印象語として、自然的遊び場で遊んだ経験のある両国の子どもは、「動植物遊び」、「気持ちいい」や「自然」といったことが多くあげられていることから、経験の有無は遊び方や印象の連想に強く影響を与えていると考えられる。

おわりに

自然的遊び場に対する大学生と子どもの意識として、日台の比較から、両国の大学生と子どもは自然性の高い場所を高く評価し、両国間の好ましさについての相関性が高いことが示されており、日本も台湾も、自然的遊び場の重要性を示唆していると言える。また、自然的遊び場での体験のある両国の子どもは、自然性の高い遊び場についての好ましさの評価がより高いことから、子どもたちが身近にある自然的遊び場に興味を持ち体験することが、今後の重要な課題と考えられる。また、自然的遊び場は大学生になっても印象が強く残ることから、整備された場所以外に、安全性を確保した上で、自然的な遊びが楽しめる場所も必要であると言える。ただし、そのような場所には危険も伴うので、大人の手助け、地域住民やプ

レイリーダーの存在も必要だろう。身近に残る数少ない自然的遊び場の保全・管理に加え、子どもが身近にある自然的遊び場に興味を持ち体験することを支える人材の育成も、今後の重要な課題である。

引用文献

- 木下勇・中村攻（1995）日・中の首都圏内居住地形態からみた子どものあそび環境に関する事例研究．第27回日本都市計画学会学術論文集，85～90．
- Hezog, T. R., Herbert, E. J., Kaplan, R. and Crooks, C. L. (2000) Cultural and Development Comparison of Landscape Perception and Preferences. *Environment and Behavior*, 32(3), 323～346.
- 黄珮文（2000）都市街廓社区中児童生活空間之研究．淡江大学建築学系修士論文，118pp.
- Lindholm, G. (1995) Schoolyards--the Significance of Place Properties to Outdoor Activities in School. *Environment and Behavior*, 27(3), 259～297.
- 三輪律江・仙田満・矢田努（1992）こどもの遊び環境の国際比較研究－トロント，ミュンヘン，ソウル，台北，横浜，名古屋のこどものあそび環境．第27回日本都市計画学会学術論文集，487～492．
- 室崎生子・市岡明子（1989）子どもの遊びの成立にかかわる空間構成要素と性質に関する研究－京都市内での事例分析から．日本建築学会論文報告集，No. 405，117～127．
- 長山宗美（1988）子どもの遊びに影響を与える環境的要因に関する研究．造園雑誌，51（5），222～227．
- Newell, P. B. (1997) A Cross-cultural Examination of Favorite Places. *Environment and Behavior*, 29(4), 495～514.
- 尾木まり・仙田満・矢田努（1990）こどもの遊び環境の国際比較研究＜東アジアのこどもの遊び環境－ソウル，台北，名古屋＞．第25回日本都市計画学会学術論文集，217～222．
- 仙田満（1984）こどもの遊び環境．筑摩書店，東京，335pp.
- 仙田満（1992）子どもと遊び－環境建築家の眼．岩波書店，東京，205pp.
- 仙田満・岡田英紀（1993）こどもの遊び環境の構造的変化に関する研究．第28回日本都市計画学会学術論文集，763～768．
- 菅麻紀子・田畑貞寿（1986）子どもの自然遊びと緑地に関する研究．造園雑誌，49（5），239～244．
- 建部謙治・松本直司・花井雅充（2003）生活空間における心象風景と地区特性との関連性．日本建築学会計画論文集，No. 565，217～223．
- 曾碩文・浅川昭一郎・遠藤寛（2004）札幌市における冬期の戸外遊びと遊び場に関する意識の変化．ランドスケープ研究，67（5），703～708．
- 山田善之・田畑貞寿（1985）世代間の自然要素に対する意識と遊びについて．造園雑誌，48（5），276～281．
- Yu, K. (1995) Cultural Variations in Landscape Preference: Comparison among Chinese Sub-groups and Western Design Experts. *Landscape and Urban Planning*, No. 32, 107～126.